学校番号	１０８

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の地理総合（帝国書院）・　標準高等地図（帝国書院）						
副教材等	図説地理資料　世界の諸地域ＮＯＷ２０２６（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界情勢のニュースなど身近な話題に興味を持ち､地理に関する学習につながる事象に関心を持つことからはじめましょう｡教室での学習が現代生活のさまざまな場面にかかわる事象や地球的課題につながることが実感できます｡ワークなどに取り組む機会も設けますので､主体的に学習に取り組んでいきましょう。

2　学習の到達目標

(1)地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
(2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
(3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などが深まっている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1部第1章1節　地球儀と地図	1　地球上の位置と地上の現象 2　経度の違いと時差 3　球体と平面の世界	a:地球上における位置のとらえ方、時差が生じる理由や、時差の求め方、球体でとらえる世界と、平面でとらえる世界に違いが生じることを理解している。 b:地球上における位置の違いは、どのような物事に、どのような形となって現れているのかについて、時差が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、球体の地球儀と平面の地図を利用しながら、世界の姿をとらえる際にどのような違いが生じるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:地球上における位置の違いによって生じている物事について、時差が生じることによる人々の生活への影響について、球体の地球儀と平面の地図それぞれの適切な利用のしかたについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第1編第1章2節　地図と地理情報システム	1　地図の種類 2　地理情報システムの利用	a:さまざまな図法によって描かれた地図の特徴や、目的に応じて地図が使い分けられていること、地理情報システムの特徴や、利用されている場面を理解している。 b:表現方法や縮尺、主題に着目しながら、目的に応じてどの地図の利用が適しているのかについて、地理情報システムの特徴に着目しながら、地理情報システムが生活のなかでどのように役立てられているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:目的に応じた地図の利用のしかたについて、地理情報システムの現在の利用方法や、これからの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

1学期	第1部第2章第1節　現代世界の国家と領域	1 国家の領域と国境 2 地図からみる日本の位置と領域	a:さまざまな国境によって国家の領域が定められていること、日本の位置や領域の特徴を理解している。 b:国境の引かれ方や、国境によって定められた領域に着目しながら、世界や日本がどのように国家の領域を定めているのかについて、排他的経済水域や領土をめぐる問題に着目しながら、日本の位置や領域にどのような特徴があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:場所や国家によって異なる国境の定め方、世界や日本の国家の領域をめぐるさまざまな問題について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第1部第2章第2節　地図からみる国内や国家間の結びつき	1 グローバル化と多様な結びつき 2 拡大する貿易 3 交通・通信の発達 4 観光と人の移動のグローバル化	a:国家間の結びつきの変化をとらえるのに地図が有用であること、世界の貿易の特徴をとらえるのに地図が有用であること、交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化をとらえるのに地図が有用であること、人々の移動の特徴をとらえるのに地図が有用であることを理解している。 b:経済圏に着目しながら、国家間の結びつきがどのように変化しているのかについて、先進国と発展途上国の関係や、各国間の協定に着目しながら、世界の貿易にはどのような特徴があるのかについて、地域差に着目しながら、交通網・通信網の発達による世界の結びつきがどのように変化しているのかについて、移動の目的に着目しながら、人々が何を求めて、どのように移動しているのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。 c:地図から読み取れる国家間の結びつきの変化について、地図から読み取れる世界の貿易の特徴について、地図から読み取れる交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化について、地図から読み取れる人々の移動の特徴について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

2学期	第2部第1章1節　世界の地形と人々の生活	1　生活と地形の関わり 2　河川がつくる地形と人々の生活 3　海岸の地形と人々の生活 4　氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活	a：世界の大山脈や大平原、河川がつくるさまざまな地形、海岸にみられるさまざまな地形、氷河地形、カルスト地形、乾燥地形が、なぜそこに、どのようにできてきたのかを理解している。 b：世界の大山脈や大平原の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、河川がつくるさまざまな地形の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、海岸にみられるさまざまな地形の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、氷河地形、カルスト地形、乾燥地形の形成過程や、それらの地形がどのような点で人々をひきつけているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 c：大規模な地形が人々の生活に影響を与えている様子について、恩恵となる部分を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。河川がつくる地形が人々の生活に影響を与えている様子について、地形の特徴や土地利用を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。海岸の地形が人々の生活に影響を与えている様子について、地形の成り立ちや変化を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。氷河地形、カルスト地形、乾燥地形の景観としての特徴を見いだしたうえで、それらの地形が観光資源として人々をひきつけている要因について主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	 レポート 課題 ワークシート

	第2部第1章2節　世界の気候と人々の生活	1　生活と気候の関わり 2　熱帯の気候と人々の生活 3　乾燥帯の気候と人々の生活 4　温帯の気候と人々の生活 5　亜寒帯･寒帯の気候と人々の生活	a:世界の気候の広がりや、気候と人々の生活が深く関わり合っていること、熱帯の特徴や広がり、気候と深く関わり合いながら、熱帯のなかでも異なる生活が築かれてきたこと、乾燥帯の特徴や広がり、降水に恵まれないなかでも人々が工夫をしながら生活してきたこと、温帯の特徴や広がり、気温や降水の面で恩恵を受けながら人々の生活が築かれてきたこと、亜寒帯・寒帯の特徴や広がり、厳しい寒さのなかでも人々の生活が築かれてきたことを理解している。 b:衣食住に着目しながら、世界の気候がどのような広がり方をしているのかや、気候と人々の生活がどのように関わり合っているのかについて、乾季の有無に着目しながら、熱帯のなかでも気候の差異がみられることや、各地で人々がどのような生活を築いてきたのかについて、年降水量と灌漑設備に着目しながら、乾燥帯において人々がどのような生活を築いてきたのかについて、大陸の西岸と東岸の違いに着目しながら、温帯のなかでも気候の差異がみられることや、各地で人々がどのような生活を築いてきたのかについて、植生や、夏冬の気温や降水量に着目しながら、亜寒帯・寒帯のなかでも気候の差異がみられることや、人々が寒さに対応してどのような生活を築いてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 気候と深く関わり合いながら人々が生活を築いてきたことについて、衣食住を手がかりに主体的に追究し、課題を見いだしている。熱帯という気候、乾燥帯という気候、温帯という気候、亜寒帯・寒帯という気候を背景に、人々が築いてきた生活上の工夫や合理性について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	 レポート 課題 ワークシート

	第2部第1章3節　世界の産業と人々の生活	1　生活を支える農業の発展 2　生活を支える工業の発展	a:農業の国際化や技術の発達が、世界の人々の生活に影響を与えてきたこと、工業の発展が世界の人々の生活を変化させてきたことを理解している。 b:自らの食生活をイメージしながら、農業の国際化や技術の発達が、世界の人々の生活にどのような影響を与えてきたのかについて、工業の発展の経緯や移り変わりに着目しながら、技術の進歩が世界の人々の生活をどのように変えてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:農業の発展が、自らの食生活だけでなく世界の人々の生活も変えてきたことについて、工業の発展と深く関わりながら、世界の人々の生活が変化してきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第2部第1章4節　世界の言語・宗教、歴史的背景と	1　言語･宗教の多様性と歴史的背景	a:宗教や言語といった文化が、民族というまとまりの形成や、人々の生活に影響を与えてきたことを理解している。 b:世界の民族に着目しながら、各民族がどのような文化や生活様式をもっているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:宗教や言語といった文化が各民族を特徴づけ、人々の生活を形づくってきたことついて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第2部第1章5節　生活文化の多様性と地理的環境	1　世界からみた日本の生活文化	a:日本と世界各地の生活文化の共通点・相違点を生み出す要因に、地理的環境があることを理解している。 b:衣食住などに着目しながら、日本と世界各地の生活文化にどのような共通点・相違点があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:日本と世界各地の生活文化の共通点・相違点を、地理的環境を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

		事例1　産業　経済発展と生活文化　―東アジア― 1　経済発展による生活の変化　―中国― 2　多様な食文化とその変化　―中国― 3　人々が集まる都市の生活と課題　―中国― 4　経済発展に伴う格差と暮らしの変化　―中国― 5　経済のグローバル化と生活の変化　―韓国―	a:多民族国家として中国をとらえたうえで、経済発展が人々の生活に影響を与えてきたこと、経済発展に伴って、中国の食生活が変化したこと、経済発展をもたらした中国の豊富な人口が、人口政策を経て、人口構成の面で変化してきたこと、経済発展に伴う中国の都市化によって、人々の生活が変化してきたこと、経済発展に伴って韓国の人々の生活や文化が変化してきたことを理解している。 b:言言語や宗教、歴史に着目しながら、中国の経済発展が人々の生活をどのように変化させたのかについて、自然環境の差異や農業に着目しながら、経済発展が中国の食生活をどのように変化させたのかについて、人口政策や人口構成に着目しながら、経済発展をもたらした中国の豊富な人口がどのように変化してきたのかについて、都市化が進んだ地域とそうでない地域があることに着目しながら、経済発展がそれぞれの地域で人々の生活をどのように変化させたのかについて、産業の特徴に着目しながら、経済発展に伴って韓国の人々の生活や文化がどのように変化してきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:多民族国家としての中国における経済発展が、人々の生活の変化として現れていることについて、自然環境の差異や農業の特徴を踏まえたうえで、経済発展に伴う中国の食生活が各地でさまざまな変化として現れていることについて、人口政策や人口構成の変化を踏まえたうえで、中国における経済発展と人口の関係性について、都市化の進展度合いの地域的差異や、そのことによって生じる経済格差の問題と対策について、特徴的な産業がけん引した経済発展が、韓国の人々の生活を変化させてきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

		事例6 宗教･歴史 伝統の継承と生活文化 ―ヨーロッパ― 1 古いまち並みとキリスト教文化 2 伝統的な食文化と地域による違い 3 物を大切にする文化と環境への配慮 4 地域統合と生活の変化	a:歴史や文化を保護しようとする意識や、人々の生活と宗教が深く結びついていることで、古くからの景観や文化が継承されてきたこと、自然環境を背景に発展してきた農業や、食品の製法や調理法を確立・保護する制度などによって、地域に根ざした食文化が継承されてきたこと、伝統と機能性、デザインを重視する工業や、環境保全の意識が根づいてきたことで、物を大切にする文化が育まれてきたこと、伝統や価値観を共有する国々が一つにまとまることで、人々の生活が変化してきたことを理解している。 b:歴史や宗教に着目しながら、古くからの景観や文化を継承しようとする価値観がどのように育まれてきたのかについて、自然環境の違いや農業に着目しながら、伝統的かつ地域固有の食文化がどのように育まれてきたのかについて、物づくりや環境保全に対する人々の考え方に着目しながら、物を大切にする文化がどのように育まれてきたのかについて、国境の自由化に着目しながら、人的・経済的交流が活発化することによって人々の生活がどのように変化してきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:歴史や伝統、文化を重視する価値観が育まれてきた要因について、地域に根差した食文化が発達し、現代においても受け継がれてきた要因について、物を大切にする文化が育まれてきた要因として、工業や環境保全の意識の定着・成熟があったことについて、地域統合の結果、異なる生活文化や新たな価値観が共存する社会を形成する重要性が高まったことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

		事例7　自然環境　寒冷な気候と生活文化　―ロシア― 1 寒冷地での生活の工夫 2 豊かな資源を生かした人々の生活	a:寒冷な気候の下で、人々が工夫しながら生活を築いてきたこと、社会主義から資本主義への体制の変化を背景に、豊かな鉱産資源を生かした周辺国との結びつきの強まりや、人々の生活や社会が大きく変容したことを理解している。 b:衣服や住居に着目しながら、寒冷な気候に対するすべとして人々どのような生活上の工夫をしてきたのかについて、また豊かな鉱産資源とそれを生かした周辺国とのつながりに着目しながら、人々の生活が社会体制の変化とともにどのように変容してきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:気候と深く関わりながら形成されてきた生活様式や工夫について、また社会体制の変化や、資源を通じた周辺国との結びつきの強まりによって、人々の生活や社会がどのように変容したかについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第2部第2章1節　人口問題	1　発展途上国の人口問題 2　先進国の人口問題	a:発展途上国で人口が増加してきたことやその要因、人口が急激に増加することで生じているインフラや医療・福祉制度、教育環境の整備の遅れなどの課題、先進国で少子・高齢化が進行してきたことやその対策として進められてきた福祉政策や、日本においても大都市圏と農村地域で人口問題の現れ方が異なることなどを理解している。 b:発展途上国ではどのように人口増加が進んできたのか、急激に人口が増加したことでどのような課題が生じているのかについて、先進国では少子・高齢化に対してどのような対策がとられているか、日本の大都市圏と農村地域とでどのような人口問題が生じているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:発展途上国での人口増加の要因と、人口増加によって生じている課題、先進国の人口問題とその対策や、日本で見られる人口問題について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

	第2部第2章2節　食料問題	1　飢餓と飽食	a:世界には飢餓と飽食が同時に存在し、食料問題には農業や貿易の構造も関係していることや、日本でも食料自給率の低さに起因する食料問題が存在することなどを理解している。 b:世界や日本の食料問題にはどのような要因があり、どのような点で問題があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:世界や日本の食料問題の解決に必要な取り組みについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第2部第2章3節　都市・移住問題	1 発展途上国の都市･居住問題 2　先進国の都市･居住問題	a:発展途上国の都市では、インフラ整備の遅れからくる交通渋滞や、都市への人口流入とスラムの形成などの問題があること、先進国の都市では、ドーナツ化現象やインナーシティの形成に伴う問題があることや、ジェントリフィケーションなどの再開発が地域や都市の人々の生活に影響を与えていることを理解している。 b:発展途上国の都市でみられる交通渋滞やスラムの形成といった問題がなぜ生じるのかについて、また先進国の都市でみられるドーナツ化現象やインナーシティの形成がどのように起こるのかや、ジェントリフィケーションによってどのような変化がもたらされるのについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:発展途上国の都市にみられる交通渋滞やスラムの形成といった問題について、また先進国の都市にみられるドーナツ化現象やインナーシティの形成、ジェントリフィケーションに伴う変化とその影響などについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

	第2部第2章4節　感染症・衛生問題	1　広がる感染症と衛生問題	a:世界の感染症がどこで、どのように現れ、どのように解決が図られてきたのかを理解している。 b:グローバル化や衛生環境に着目しながら、感染症がどこで、どのように生じ、どのように解決が図られてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:世界規模で生じる感染症の解決に必要な取り組みについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第2部第2章5節　資源・エネルギー問題	1　限りある資源･エネルギー 2　資源･エネルギー問題への取り組み	a:資源・エネルギーの生産地と消費地は、それぞれ地域的に偏在していること、どのような資源・エネルギー問題が生じており、どのような対策が求められるのかを理解している。 b:資源・エネルギーの生産地と消費地が、なぜ、どのように偏在しているのかについて、また利用の安全性や、安定供給といった側面に着目しながら、人々の生活と資源・エネルギーの間にどのような問題が生じているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:資源・エネルギーの生産地・消費地が、地域的に偏在していることへの対応について、人々の生活を支える資源・エネルギーが、安全で安定的なものとなるのに必要なことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

	第2部第2章6節　地球環境問題	1　国境を越えて広がる地球環境問題 2　地球温暖化と国際的な取り組み	a:地球環境問題がどこで、どのような影響を及ぼしているのか、持続可能な開発に向けて課題となっていることや、国際的な取り組みが必要なことを理解している。 b:海洋汚染や熱帯林破壊に着目しながら、地球環境問題がどこで、どのように生じており、どのような影響が生じているのかについて、また国際的な取り組みに着目しながら、持続可能な開発はどのように実現できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:地球環境問題が引き起こされる要因や、各地に及ぼす影響について、持続可能な開発を実現するために必要なことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
3学期	第3部第1章1節　自然災害と暮らし	1 世界での自然災害とその対応	a:世界の土台となっている自然環境は、恩恵だけでなく災害による被害ももたらすことがあり、各地で災害への備えや、共生していくための取り組みが進められていることを理解している。 b:世界各地で自然環境に起因するどのような災害が生じているのかや、自然環境との共生に向けたどのような取り組みが進められているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:世界各地でみられる自然災害と、それとの共生に向けた取り組みについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第3部第1章2節　日本の自然環境	1 日本の自然環境と人々の生活	a:世界と比較した日本の自然環境の特徴を理解している。 b:地形や気候、自然災害との関係に着目しながら、日本の自然環境にはどのような特徴があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:世界の地形や気候、自然災害と比較した日本の自然環境の特徴について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

	第３部第１章３節　地震・津波や火山活動による災害と防災	1　地震･津波のしくみと被害 2　地震･津波災害と地域の取り組み 3　火山の恵みと噴火による被害 4　火山災害と地域の取り組み 5　地震･津波や火山活動への対策	a:地震が発生するメカニズムや、生じる場所と揺れの大きさの関係、地震によってもたらされる被害、火山がもたらす被害がある一方、恩恵も受けていること、地震・津波や火山活動に対して、日本や世界の国々が行っている対策を理解している。 b:地震が発生する場所や震源からの距離や東日本大震災や阪神・淡路大震災による被害に着目しながら、地震がどのように生じ、場所によってどのような現れ方をするのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。また、火山がもたらす被害と恩恵の両側面に着目しながら、火山と深く関わりながら人々がどのような生活を築いてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。さらに普賢岳や桜島の噴火による被害に着目しながら、火山の周辺で暮らす人々および日本や世界の国々が地震・津波や火山活動に対してどのような対策をしているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:地震の生じるメカニズムや、発生場所と揺れの関係性について、地震によって人々の生活がどのような被害を受けるのかについて、火山と人々の生活が深く関わっていることや火山の周辺で暮らすうえで必要な対策について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

	第３部第１章４節　気象災害と防災	1 さまざまな気象災害 2 集中豪雨・都市型災害・雪害と地域の取り組み	a:場所によってどのような気象災害が生じるのか、集中豪雨による災害リスクを自然環境の面から見いだし、都市部や豪雪地帯に必要な防災対策を理解している。 b:場所による被害の違いに着目しながら、どのような気象災害がどのような場所で生じるのかについて、また集中豪雨に対して、どのような地域でどのような対策が必要とされるのか、都市部や豪雪地帯ではどのような災害対策があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:気象災害が生じる場所とその要因について、気象災害が生じる場所とその要因について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート
	第３部第１章５節　自然災害への備え	1 減災への取り組みと被災地への支援	a:生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解している。生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたについての技能を身につけている。 b:事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

	第3部第2章1節　生活圏の調査と地域の展望	1 地理的な調査テーマ設定 2 事前調査と現地調査 3 調査結果の分析と仮説の検証 4 調査結果のまとめと地域社会への参画	a: 生活圏の調査を行ううえで、「問い」を立てることや事前調査が必要なこと、事前調査の結果から仮説を立てることや、調査項目を準備したうえで現地調査を行うこと、現地調査の結果を分析・整理し、仮説の検証を行うこと、調査結果の発表方法や、調査結果を地域に還元するために必要な取り組みを理解し、技能として身につけている。 b: 自らの生活圏に対してどのような「問い」が立てられるのかや、どのような事前調査が必要なのか、また事前調査の結果からどのような仮説や調査項目が立てられるのかについて、他地域の似た事例と比較するなど、仮説をどのように検証するのかについて、調査結果の発表方法に着目しながら、現地調査の結果をどのようにまとめ、発表するのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 自らの生活圏に対して「問い」を立てたり、事前調査の方法を考えたりすること、また仮説や調査項目など、現地調査を行ううえで必要なこと、現地調査の結果を分析・整理したり、他地域の事例と比較したりしながら仮説の検証を行うこと、調査結果を地域に還元するという視点をもちながら、調査結果のまとめ方や発表のしかたについて主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査	定期考査 レポート 課題	レポート 課題 ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度